

中学2年生が高志学マナー講座を行いました

令和6年10月15日（火）に、長谷美左子先生（株式会社ブリッジ 代表取締役社長）をお招きし、マナー講座を行いました。「いつマナーが必要になるか」、「マナーを身につけることでどのような効果が期待できるか」というような、マナーを身につけることの意義を生徒が考えることから始まりました。人と人とが交流するときにマナーが必要になることが示され、マナーだけでなくエチケットやルールを身につけることで快適な日常生活を送り、自分に自信が持てるようになることが分かりました。

我々が暮らす文化で大切にされている礼儀、礼節の基盤としての「気遣い、心遣い、気配り」の違いが明確になり、気遣いには観察力が、心遣いには察知力が、気配りには洞察力が欠かせないことを教わりました。それらの力を働かせることで意図せずして相手に不快感を与えたとしても、相手の反応を見ながら修正することができるようになります。

後半は、当たり前だけれどなかなかできない「あいさつ」について学びました。出会って3秒で決まる第一印象を大切にするためにもあいさつは重要であり、社会人になってもあいさつができることだけで評価が高くなります。表情のつくり方や立ち居振る舞いのしかたを学び、会釈や普通礼、敬礼の違いも実践を交えて取り組みました。



（生徒感想）

- ・マナー、エチケット、ルールを意識して人と接することができないと相手を不快にさせたり、言葉で相手を傷つけたりするということが分かりました。職場体験では、今日習ったお辞儀の角度や言葉遣い、表情を意識して行動できるようにしたいと思いました。人は最初の印象が記憶に残ることが分かったので、最初のあいさつをしっかりとできるように心がけようと思いました。
- ・マナーとは人が生きていく上で共生するために、嫌な思いをさせない最低限のものだと思いました。それだけでなく、自分も相手も気持ちよく生活でき、自分は安全な人間だと示すものだと思いました。
- ・相手だけでなく、自分の状態にも目を向けることがマナーを守る上で大切だということを知り、驚きました。お話を詳しく聞いて、確かに自分のことを知らなければ何に気をつけるべきか分からないので納得しました。